

令和5年 上期

景況調査報告書

令和5年1～6月期 実績

令和5年7～12月期 見通し

徳之島三町商工会

(令和5年7月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等、地域の経済動向について半期毎に変化の実態等の諸状況を迅速・的確に収集しているものである。

この報告書の中で用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値であり、企業の景気動向を表す指数として利用されている。

＜お天気マークの説明＞

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和5年1～6月期を対象とした。令和5年7～12月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 徳之島町商工会・天城町商工会・伊仙町商工会
- 回答企業 対象企業 29企業
製造業：6企業 建設業：5企業 小売業：9企業
サービス業：9企業
(※徳之島の29企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数とご理解いただきたい。)

島内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
前年同期比	(2022年1月～6月期)		▲ 8.3		0.0		▲ 5.6		16.7
前期比	(2022年7月～12月期)		▲ 5.6		6.7		▲ 3.7		22.2
来期見通し	(2023年7月～12月期)		▲ 8.3		▲ 15.0		▲ 2.8		13.9

総合（業況）

前年同期（2022年1月～6月）と比較した今期（2023年1月～6月）の業況は、製造業▲8.3、建設業0.0、小売業▲5.6、サービス業16.7となり、全体的に「まあまあ」以上の指標となった。4月になり電気料金や送料をはじめ原材料費等も軒並み価格上昇となっているが、消費活動の活性化により改善の兆しが見える。

前期（2022年7月～12月）と比較すると製造業▲5.6、建設業6.7、小売業▲3.7、サービス業22.2となり前年同期比と同様に全体が「まあまあ」以上の指標となった。

来期（2023年7月～12月）の見通しは、今期と比較し製造業▲8.3、建設業15.0、小売業▲2.8、サービス業13.9となっている。円安の進行やエネルギーコストの高騰、物価上昇による相次ぐ原材料の高騰やゼロゼロ融資の返済も始まるなど危機感による指標となった。採算や資金繰りなど中小企業は依然として厳しい状況にある。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 6企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2022年1月～6月期)		▲ 16.7		▲ 16.7		▲ 16.7		▲ 16.7
前期比	(2022年7月～12月期)		0.0		▲ 16.7	-	-		0.0
来期見通し	(2023年7月～12月期)		▲ 16.7		0.0		▲ 16.7		0.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

引合いは増加傾向にあるが、原材料価格や運送費高騰の影響を受けている。

経営上の問題点

原材料価格の高騰の影響により、採算悪化に拍車をかけている。

【建設業】 有効回答数 5企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2022年1月～6月期)		▲ 20.0		20.0		▲ 20.0		20.0
前期比	(2022年7月～12月期)		0.0		0.0	-	-		20.0
来期見通し	(2023年7月～12月期)		0.0		0.0		▲ 40.0		▲ 20.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

小規模工事の民需の動きはあるが、官公需は停滞気味にある。

経営上の問題点

材料価格の高騰や人材不足などの影響による採算面の悪化が懸念される。

【小売業】 有効回答数 9企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2022年1月～6月期)		▲ 11.1		0.0		▲ 11.1		0.0
前期比	(2022年7月～12月期)		▲ 11.1		0.0	-	-		0.0
来期見通し	(2023年7月～12月期)		▲ 11.1		0.0		▲ 11.1		11.1

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

食材や油など仕入れ単価が大きく高騰しており、値上げを実施。

経営上の問題点

全体的な物価の上昇、電気料金等の上昇を受け採算が全体的に悪化している。

【サービス業】 有効回答数 9企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2022年1月～6月期)		55.6		11.1		▲ 11.1		11.1
前期比	(2022年7月～12月期)		44.4		22.2	-	-		0.0
来期見通し	(2023年7月～12月期)		44.4		22.2		▲ 11.1		0.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

徐々に需要が回復し、客足は戻りつつある。

経営上の問題点

物価の高騰の影響が大きく、今後の採算確保が課題となっている。